

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
神戸電子専門学校		昭和51年4月1日	福岡 壯治		〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 コンピュータ総合学園		昭和52年2月28日	福岡 富雄		〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014		
目的	楽曲・効果音制作やレコーディングのスキルを養い、映画やゲームの音楽・効果音、モバイルコンテンツなど、あらゆるメディアの「音」を生み出すサウンドクリエイターを育成する						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養	文化・教養専門課程		サウンドクリエイト学科		平成17年文部科学省 告示第176号 平成23年文部科学省 告示第167号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1734	68	510	1360	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		49人		2人	3人	5人	
学期制度	■前期：4月1日～10月14日 ■後期：10月15日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 各期末の成績評価において、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。 成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う。		
長期休み	■夏季：7月20日～8月31日 ■冬季：12月20日～1月7日 ■春季：3月20日～4月10日			卒業・進級条件	進級条件： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ年間の出席率80%以上の者。 卒業条件： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ各年次の出席率80%以上の者。		
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応 学生への連絡、保護者への文書通知			課外活動	■課外活動の種類 地域活性化イベントへのボランティア参加など		
					■サークル活動：有		

就職等の 状況	■主な就職先、業界等 株式会社SOUND-K 株式会社Studio Nest	映像音響処理技術者資格 主な資格・ 検定等
	■就職率 ^{※1} : 85.71 %	
	■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 80 %	
	■その他 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)	
中途退学 の現状	■中途退学者 5 名 平成27年4月1日 在学者 43 名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 38 名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)	■中退率 11.6 %
	■中途退学の主な理由 健康の悪化による	
	■中退防止のための取組 こまめに面談をし、無理をさせないよう配慮	
ホームページ	URL: http://www.kobedenshi.ac.jp	

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。

③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

（「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。）

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本学科における実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程（カリキュラム）の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善等を含む）に活かすことを目的に、教育課程編成委員会（以下委員会という）を設置する。

委員会は、業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、実務に必要な最新の知識・技術・技能、その他教育課程の編成に関する事項を審議する。

委員会の委員は校長及び校長が指名する教職員の他、専攻分野に関する企業等の役職員から広く選任するものとし、少なくとも以下の①または②から1名、③から1名を委員に加えることとする。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員。

②専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者。

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員。

委員の任期は1年とする。但し再任を妨げない。

委員会の委員長は校長または校長が指名する教職員とし、委員会の会務を総理する。

委員会の実施結果については学校側委員および関連教職員により検討を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために必要な教育課程の編成に活用する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
児玉 宝謹	NPO法人日本伝統文化評議会
栃尾 恒樹	有限会社プレストーン
福岡 壯治	神戸電子専門学校
源田 定之	神戸電子専門学校
村川 大介	神戸電子専門学校
市尾 賢次	神戸電子専門学校
飯嶋 慶太郎	神戸電子専門学校

(開催日時)

平成27年度第1回 平成27年 7月22日 10:00～11:00

平成27年度第2回 平成27年11月25日 16:00～17:00

平成27年度第3回 平成28年 2月24日 15:00～16:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業等の要請等を十分に生かしつつ、本学科の専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的に、企業等と連携して実習・演習の授業を行う。

実施に当たっては連携する企業との間に、実習・演習の実施、実習・演習用教材の作成、実務的能力評価に関する補助等について協定書（業務委託契約）を締結する。

実習・演習は教育課程編成委員会の結果を活用して編成された教育課程に対して、職業実践的能力を修得するための実習・演習の内容や方法検討、実施、修得した実践的能力の評価等について企業等と連携して行う。

実習・演習の実施は連携する企業等から派遣された講師、または実施方法等について企業等との連携の上で本校教員が行う。留意点として、単純な音楽そのものの評価ではなく、映像や再生現場に特性にあった音楽づくりとは何かを念頭に置いた連携、指導を進めていく。

「作品」「商品」を作成する工程に必要なコミュニケーション能力を養うためにも、連携企業と教員、学生通しの直接のやり取りを重視していきたい。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
DAW実習	音楽制作ソフト「CUBASE」を使っての楽曲制作、効果音制作等の方法を実習形式で行う	有限会社ビートショップ
プレゼンテーション	就職活動に必要な自作品や各種コンペへ提出する楽曲の添削指導	有限会社プレストーン

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

神戸電子専門学校教職員は業務上の能力開発、資質の向上等に関し組織的に研修に取り組む。

教員は職業専門教育を実践するFD（ファカルティデベロップメント）を主題とし、専門的技術力（専攻分野における実務に関する知識、技術、技能）の向上、および教育力（授業および学生に対する指導力）向上等を目的として実施する。

- ・学校全体研修は全教職員を対象とし、年間1～2回の研修を実施する。
- ・部署別研修は部署教職員を対象とし、任意の研修を実施する。
- ・個人研修は所属部門長の指示により、任意の研修を実施する。

教職員の資質向上および教育の質保証のために、積極的に外部の研修へ参加を奨励する。

一部の者が参加する外部研修の結果等については、必要に応じ関連学科・部署または教員全体への報告会等を開催し共有を図る。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
永吉 一郎	地域ICT推進協議会
網本 雅生	NPO法人神戸デザイン協会
横山 剛	株式会社SRC

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.kobedenshi.ac.jp> (学校ホームページにて公表)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.kobedenshi.ac.jp> (学校ホームページにて情報提供)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 サウンドクリエイイト学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			HR	学科内連絡とともに、学生の生活や学習、就職の状況をヒアリングしアドバイスする。	1通	34		○			○				
○			作編曲論	音楽の基本的な知識である「楽典」からスタートして、コード進行など、作曲、編曲に必要な技能を学ぶ。	1通	68	△	○		○			○		
○			D A W実習	音楽制作ソフト「CUBASE」使用方法を中心に、MIDIやAUDIOの扱いを学ぶ。前期は基本的な操作方法を、後期には楽曲制作、効果音制作とより実践的な活用方法を学ぶ。	1通	102		△	○	○			○		○
○			レコーディング実習	マイクやオーディオケーブルの扱い方や特性を知るといった基本に始まり、レコーディングミキサー中心とした信号の流れ、各種エフェクターの使用方法を実習を通して学習する	1通	102				○	○			○	
○			MA実習 I	映像に音楽・効果音・ナレーションなどをダビングし加工する(MA=Multi Audio)技術を、実際の作品制作を通して習得する	1通	68		△	○	○			○		
○			P o p s 演習	前期ではアンサンブルの中からポップス音楽の構成を学び、後期においては実際に商業音楽的な依頼に基づいた短い作品を制作していく	1通	102		△	○	○			○		
○			キャリアデザイン	就職活動に備える為、身につけなければならない「社会性」「意志力」を醸成する	1通	34		○			○				
○			音楽概論	様々な楽器の特色や音楽ジャンルを始め、音響機材知識なども含めた音楽制作において必要な知識を幅広く習得する	1前	34		○			○				○
○			P C 演習 I	プロの現場でパソコン (Macintosh) を使用する上で必要な知識と技術を習得する。特にデータの管理やバックアップについては業務を安全に進めるうえで必要。	1前	34			○		○				○
○			作曲基礎実習	音楽制作を行う上で楽器が使用できるかできないかが大きな比率を占める現状から、特に重要な鍵盤楽器の演奏方法を習得する	1前	34				○	○				○
○			基礎実習	音楽関連の制作に必要な企画・構成・制作・技術の基礎を習得する。具体的にはラジオ番組制作の過程を学ぶ。	1前	51				○	○			○	
○			音響効果 I	映像作品における音響効果の重要性を学び、基本的な音の選択や、作成を学ぶ。作成では実際に様々な道具を使用しての「フォーリー」について実習を行う。	1前	51				○	○			○	

○		コラボレーションⅠ	分野内外との共同作品制作を通じて、コミュニケーション力やクリエイターとしての意識作りをねらう。	1後	51					○	○		○		
○		映像基礎	映像を製作する上で必要な基礎知識を習得する。	1後	34					○	△	○			○
○		ミックスダウン実習Ⅰ	音そのものへの理解から始まり、音声信号の流れ、音の加工法を経て「ミキシング」の基礎を学習する。	1後	51					○	○		○		
○		音響効果Ⅱ	映像作品における音響効果の重要性を学び、基本的な音の選択や、作成を学ぶ。作成では実際に様々な道具を使用した「フォーリー」について実習を行う。	1後	34					○	○		○		
○		HR	学科内連絡とともに、学生の生活や学習、就職の状況をヒアリングしアドバイスする。	2通	34					○	○		○		
○		プレゼンテーション	専門就職に必要な作品制作や、面接における自己PRを高める。また、いわゆるコンペなど自作品を外部に売り込んでいくための作品作りについて指導していく。	2通	102					○	○		○		○
○		コラボレーションⅡ	ゲームソフト分野・グラフィックス分野などの本校他学科や外部の企業、グループとの共同作品制作を通して、役割意識や制作技術を高める	2通	102					○	○		○		
○		作編曲演習	1年次に学習した楽典やコード理論をさらに発展させて、ポピュラー音楽制作に必要な知識を学び、実際に楽曲制作を行う。	2通	102					○	○		○		
○		ダンスミュージック演習	ダンスミュージックにおける古典的なものから最新の音楽シーンのものを聞き、体で感じることによって踊れる音楽の本質を掘り下げ、実際に制作をしていく	2通	102					△	○	○		○	
○		サラウンド演習	音楽、環境音、映像等の5.1chサラウンド作品の研究や演習を通してサラウンドミックスやサウンドデザインの技法を実践的に学習する	2通	102					△	○	○		○	
○		MA実習Ⅱ	映像編集・音楽・効果音・ナレーションなどの加工技術をより追求し様々なテーマにおける映像作品を制作する	2通	102					△	○	○		○	
○		オーケストレーション	オーケストラ・アレンジを中心にMIDIとオーディオを統合した環境での楽曲制作を行い、よりクオリティの高い作品を制作する	2通	102					△	○	○		○	
○		整音技術	一年次「音響効果」の延長上にあり、アニメ制作、映画制作における効果音のさらなる立体的な処理を追求。	2通	102					△	○	○		○	
○		クリエイティブワーク	音での表現の根幹となる部分を突き詰め「枠にとられない」作品制作を目指す。野外での音源採集や、ライブパフォーマンスによる発表も行う	2通	102					△	○	○	○		○
○		商業音楽制作	ゲームや、広告、イベントなど、あらゆるニーズに応じられる幅広い音楽的視野を広め、クライアントの求めるものを考え、様々な種類の楽曲を制作する	2通	102					△	○	○		○	
合計					27 科目	1938 単位時間 (単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>卒業要件 各年次の進級要件を満たした者で、学科の教育課程に定められた必修科目（選択必修科目を含む）のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得（成績評価3以上）し、かつ各年次の出席率80%以上の者。</p> <p>進級要件 学科の教育課程に定められた必修科目（選択必修科目を含む）のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得（成績評価3以上）し、かつ年間の出席率80%以上の者。</p> <p>成績評価について 各期末の成績評価（100点満点）において、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う</p>	1学年の学期区分	2期
<p>履修方法および総授業時間数の計算方法 1年次、全科目必修（884時間） 2年次 ・必修科目（合計748時間） ・選択必修科目は下記の中より1つ（各102時間）を選択する オーケストレーション、整音技術、クリエイティブワーク、商業音楽制作 ・2年次修了に必要な授業時間は必修科目748時間+選択必修科目102時間=合計850時間</p> <p>学科の修了に必要な総授業時間は1年次884時間+2年次850時間=合計1734時間</p>	1学期の授業期間	17週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。